

写真で追う、「観光30年」

おかげさまで創刊
2500号
週刊「観光経済新聞」



①東北・上越新幹線が相次いで開業(昭和57年。写真は昭和60年の上野駅乗り入れ)
②国鉄分割民営化でJR7社が発足(昭和62年)
③観光産業振興議員連盟の取り組みを本紙は常に追いつけた(観議連主催の「列島観光会議」。右は観議連の佐藤文生会長=当時)
④本紙主催「にっぽんの温泉100選」が昭和62年にスタート(審査会の模様)
⑤日観連はじめ業界の各団体の動きも逐一追った(昭和53年の日観連通常総会)



この30年で観光業界を取り巻く環境は大きく変化した。昨年は業界の悲願であった観光庁も創設され、観光業界は今年新たな1歩を踏み出した。業界のさまざまな出来事を追いつけて2500号。この間本紙記者のカメラは観光業界のさまざまなシーンとらえてきた。その一部を振り返ってみよう。

平成年代

①国内観光振興に寄与したTAP(写真は第12回中央会議) ②国内旅行振興のためのリアル・ジャパン・サミット(平成13年4月7日付) ③阪神大震災の被害地で下呂温泉の給湯タンクが活躍(平成7年) ④新潟などで大地震が発生。都道府県や観光地が風評被害対策に取り組んだ。東北の女将らは冬菜鉄三国交相に要請書を提出した(平成20年7月26日付) ⑤サッカーW杯を日韓が共催。相互交流を後押しした(平成14年) ⑥愛知県で「愛・地球博」開催(平成17年) ⑦中国からの団体旅行向けに短期ビザ解禁。第1陣が歓迎を受けた(平成12年9月30日付)



昭和年代



業界再編の波

⑧近畿日本ツーリスト、日本旅行の合併が決まるが、年明けには白紙撤回(平成13、14年。写真は平成14年2月9日付) ⑨日本航空と日本エアシステムが統合。国内航空は2強時代に突入(平成14年)



インタビュー・対談・座談会



瀬島龍三・観光政策審議会会長に「あすの日本の観光」を聞く(平成7年)



2



華やかな女性経営者で鼎談(平成20年1月5日付)
◀本紙と関係の深い、二階俊博衆議院議員も紙面に登場(平成20年10月11日付)

①本紙対談の常連だった高峯三枝子さん(昭和60年、国鉄の片岡旅客局長と) ②新春恒例となった大手旅行会社社長座談会(平成21年1月1日付)



観光庁創設



観光庁創設にあたり金子一義国交相と本保芳明観光庁長官が看板の除幕を行った(平成20年10月4日付)
◀1500人が一同に会した推進の集い(平成20年10月11日付)

